

ヒューマンメディア財団 情報誌「ヒューディア」

HU-DiA

e-PORT SECOND AGE

未来へ進む北九州のICT

VOL.25
Jun. 2016



北九州 e-PORTのあゆみ



北九州 e-PORT 構想は、海の港(seaport)、空の港(airport)に続く、第3の港として「情報の港(e-PORT)」を整備し、ICT サービスを電気や水のように、いつでも簡単・便利に使える社会づくりを目指すことをコンセプトとして2002年に策定され、誘致を目的としたIT 系展示会への出展、セミナーの開催などのプロモーション活動を行って参りました。

この12年間の取り組みの結果、データセンターやコールセンター、情報倉庫など、ICTサービス基盤の構築・拠点化を実現しました。

2000

平成12年9月
北九州市が
「北九州地域情報化計画」策定

2005

平成17年12月
情報倉庫
「西日本センター2号館」開設

2007

平成19年7月
データセンター「北九州 e-PORT 第二センター」開設
平成19年10月
データセンター「e-PORT 小倉センター」開設
平成19年11月
「北九州 e-PORT フェーズIIプラン」発表

2002

平成14年4月
総務省「ITビジネスモデル地区構想」地区指定
平成14年7月
「北九州 e-PORT 構想」発表
平成14年10月
「北九州 e-PORT 推進協議会」設立

2006

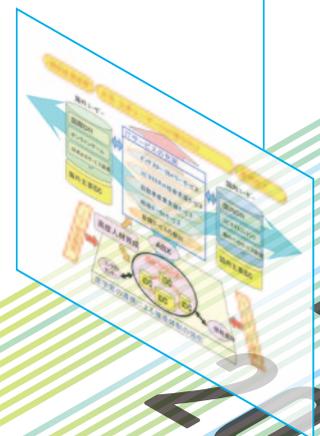
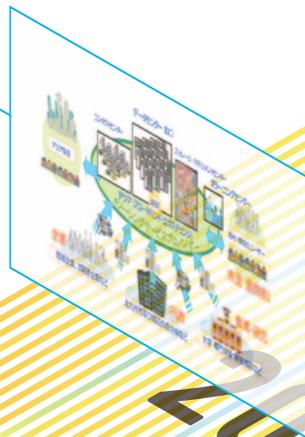
平成18年6月
ネットワーク
オペレーションセンター開設
平成18年11月
カスタマーオペレーション
センター開設

2003

平成15年2月
情報倉庫「西日本センター」開設
平成15年8月
データセンター
「北九州 e-PORT センター」開設
データセンター運営団体
「北九州 e-PORT イニシアティブ」設立
平成15年10月
「北九州地区電子自治体
推進協議会(KRIPP)」設立
「総合行政ネットワーク(LGWAN)」
提供開始

フェーズIIのゴール像

北九州 e-PORT 構想
フェーズIイメージ図



2001

平成13年1月
北九州市長を本部長とした
「北九州IT推進本部」が設置される
平成13年12月
北九州市が
「北九州IT推進アクションプラン」策定

2009

平成21年3月
データセンター
「アジア・フロンティア2号館」開設

2010

平成22年9月
データセンター
「アジア・フロンティア3号館」開設

スマートコミュニティ
創造事業イメージ図



SECOND AGE

FIRST AGE

2015
2016

2012
2013
2014

2009
2010
2011

2015

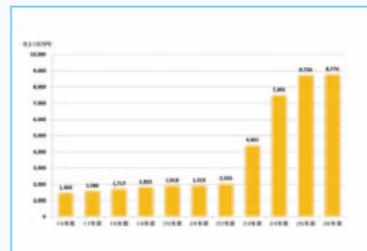
平成27年4月

「北九州 e-PORT
構想2.0」発表

REPORT



北九州 e-PORT 構想 フェーズI~IIIによる成果



e-PORTプラットフォーム集積調査結果
(平成26年度末)

- ・データセンター4か所
- ・情報倉庫1か所 (H26.3.1ヶ所に集約)
- ・年間売上8,766百万

2012

平成24年4月
データセンター
「アジア・フロンティア5号館」開設

2013

平成25年7月
北九州市ディザスタリカバリ (DR)
拠点化推進に向けた行動方針発表

2008

平成20年10月
データセンター
「アジア・フロンティア1号館」開設

2011

平成23年4月
データセンター「アジア・フロンティア4号館」開設
平成23年4月
「北九州スマートコミュニティ創造事業」開始
平成23年7月
「北九州 e-PORT フェーズIIIプラン」発表
平成23年10月
情報倉庫「西日本センター3号館」開設

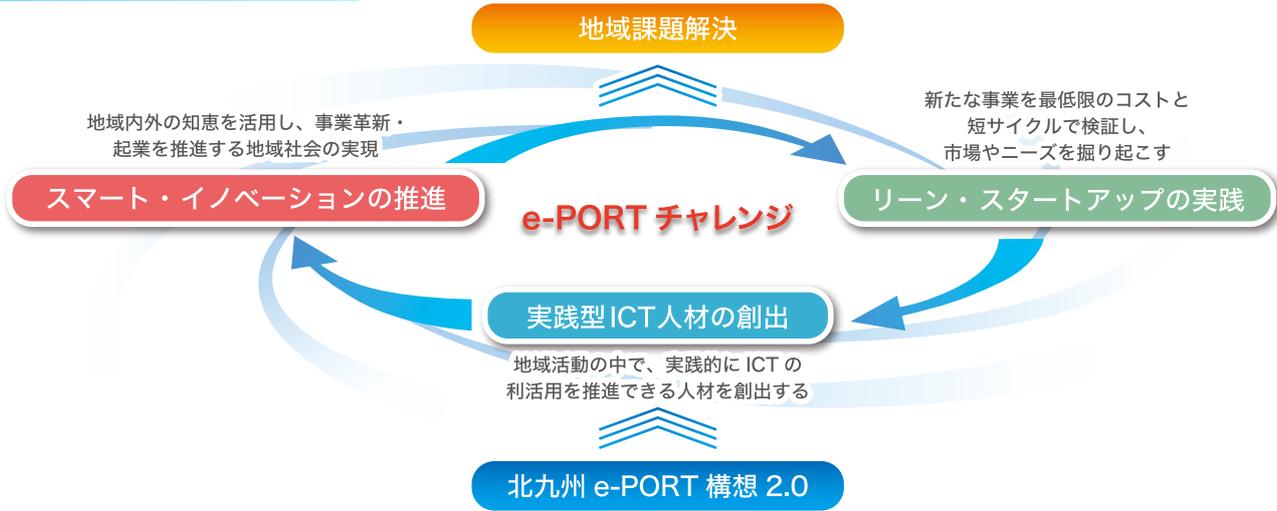
北九州 e-PORT 構想 2.0

地方社会が抱える
課題の解決にICTで
取り組む新たな戦略

「北九州 e-PORT 構想 2.0」の基本戦略

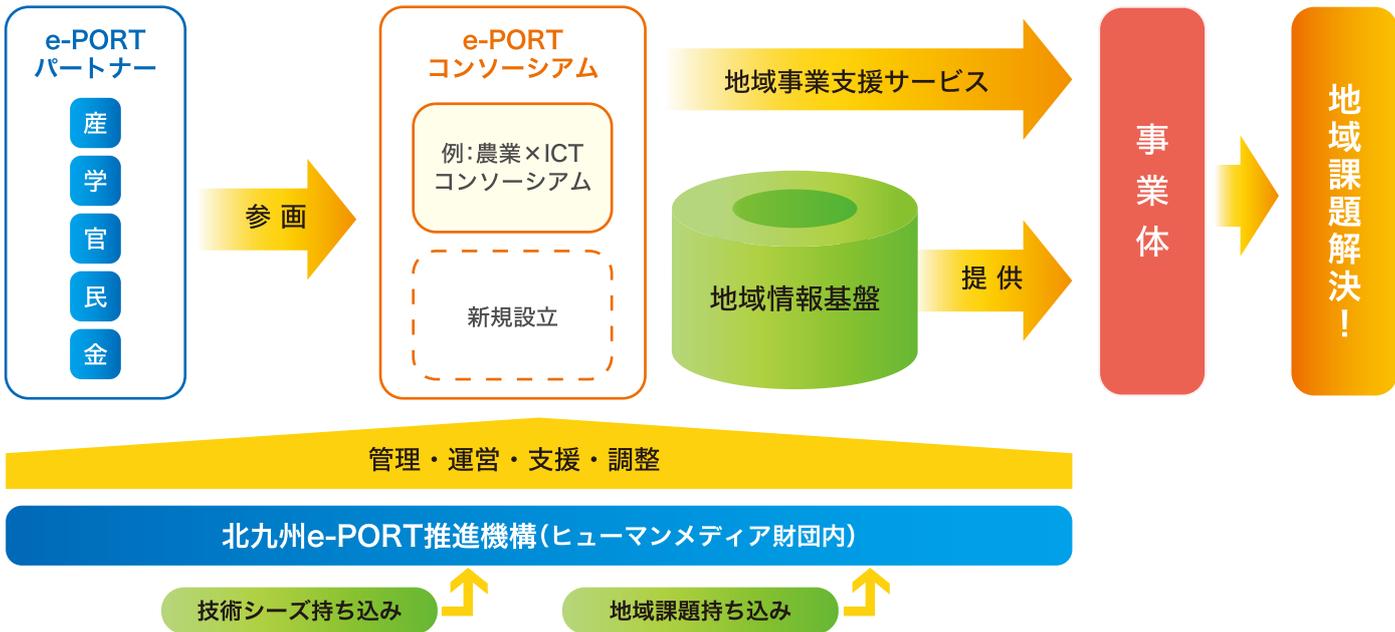
これまでの取り組みにより集積したICT基盤(クラウド)を活かしながら、進化を続けるICT環境の変化に対応するための新たな戦略として「北九州 e-PORT 構想2.0」を策定しました。

本構想では、基本戦略として、「スマート・イノベーションの推進」・「リーンスタートアップの実践」・「実践型ICT人材の創出」という3つのe-PORTチャレンジを推進し、「地域課題解決型ビジネス創出のためのICT活用プラットフォームの構築」を目指しています。

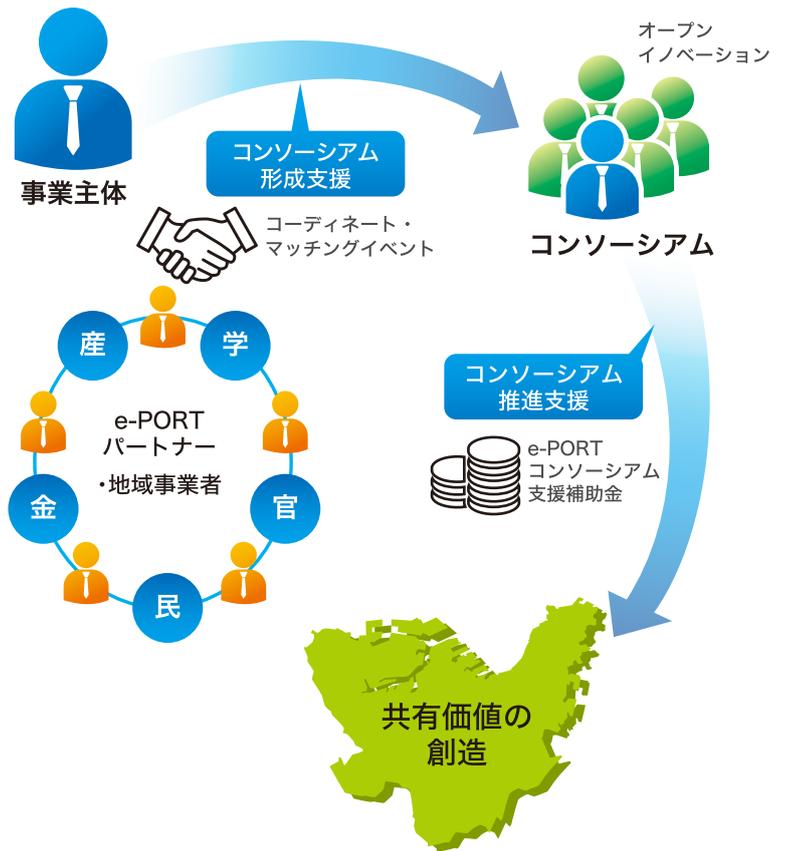


「北九州 e-PORT 構想2.0」の全体構成

- 「e-PORTパートナー」「e-PORTコンソーシアム」「事業体」「北九州 e-PORT 推進機構」が中心組織です。
- ・「e-PORTパートナー」:産学官民金の集合。事業を進めるため、事業体に対して、サービスの提供や支援、自ら事業体として事業を行う、いわゆる「会員」
 - ・「e-PORTコンソーシアム」:e-PORTパートナーを中心に、テーマ毎に結成されるワーキンググループ
 - ・「事業体」:e-PORT2.0の仕組みを利用して、自ら事業(地域課題解決やビジネス創出)を行う企業・団体等
 - ・「北九州 e-PORT 推進機構」:「e-PORT2.0」全体を推進(管理・運営・支援)する組織(事務局)



オープンイノベーションを支えるコンソーシアム・補助制度



コンソーシアム、補助制度

e-PORT2.0ではオープンイノベーションに取り組む企業・団体グループを「コンソーシアム」と呼び、その形成および推進に関する支援を実施します。

事業主体からの相談に対して協働を望んでいる「e-PORT パートナー」や地域事業者とのコーディネートを実施し、マッチングイベントの開催などを通じてコンソーシアムの形成をサポートします。

こうして形成されたコンソーシアム、あるいは既に形成済のコンソーシアムの活動を支援するため、「e-PORT コンソーシアム支援補助金」の交付などを通じて、事業の推進をサポートします。

(e-PORT コンソーシアム支援補助金についての詳細は <http://www.e-port.gr.jp/grant.php> を参照)

ロードマップ

		フェーズ 1			フェーズ 2	フェーズ 3
		(2015)	(2016)	(2017)	(2018~2020)	(2021~2023)
組織	推進機構	立ち上げ			事業規模に応じた人員拡張	完全独立採算性の検討
	コンソーシアム パートナー	立ち上げ			会員数・ネットワーク拡大	スマート・イノベーションの推進
地域事業支援サービス	地域課題解決型 ビジネス創出	認知症高齢者徘徊対策事業 スマートヘルスケア介護予防事業 公共施設管理運営システム構築事業			e-PORT チャレンジ発サービス支援	
		事業化支援プロデュース実施 (ex. 農業 × ICT プロジェクト)				
		人材育成活動の推進 (セミナー・事業マッチング・講座開催)				
地域情報基盤	共通アプリケーション プロトタイプ開発	運用試行・改善			正式運用	北九州外 (日本国内外) へのモデル展開
	データ集約 基盤構築	e-PORT チャレンジ内データ集約 データ分析サービス実施			リーン・スタートアップ 実践可能な基盤構築	
広報・営業	北九州市内ブランド確立			国内外へのブランド周知展開		



安全安心を
見守り支える



e-PORT2.0における重点プロジェクトのひとつとして、認知症高齢者徘徊対策に有効なサービスモデルの構築を目指しています。そのための取り組みとして、ウェアラブルデバイスを活用した実証を行い、本格的サービス展開につなげていきます。

・Android/iOS版見守りシステムスマホアプリやセンサー(中継器)の開発
 ・平成28年2月に北九州市小倉南区の守恒校区にて、地域で発生したSOSに迅速に対応することを目的として発足した「守恒SOSネットワーク会議」が主催する検索模擬訓練において、スマホを用いた児童・高齢者の見守りシステムの技術検証を行うため、実証実験を実施した。

EVENT

第4回検索模擬訓練

日時 平成28年2月13日 場所 北九州市小倉南区守恒校区

守恒校区が毎年実施する「徘徊者検索模擬訓練」において、発信機(タグ)を徘徊者役に持ってもらい、スマートフォンやパソコンによる検索の実証実験を行いました。

訓練では、徘徊者役6名を「発信機+スマホ」「発信機のみ」「発信機なし」の3つのグループに分け、検索者は校区内に設置されたセンサー(中継器)やスマートフォンの位置情報により徘徊者役を探索しました。訓練の結果、発信機を持っている徘徊者役の方は、発信機を持っていない方より早く発見されました。





ITで支える 施設マネジメント

北九州市では多くの公共施設が老朽化しており、これに対応するため、都市機能を集約し、生活利便施設や住居がまとまって立地する「コンパクトなまちづくり」を進めることで、今後40年間で公共施設の保有量を約20%削減することなどを掲げた「北九州市公共施設マネジメント実行計画」を策定しています。

このことを受け、e-PORTでは、北九州市及び関連団体と連携し、「公共施設の利用実態の見える化」、「施設管理運営費の低減」、「市民利便性の向上」に資するITシステムを構築し、北九州市における公共施設の運営をITで支えるとともに、民間施設とのコラボレーションや他都市展開によるビジネスの創出を目指しています。

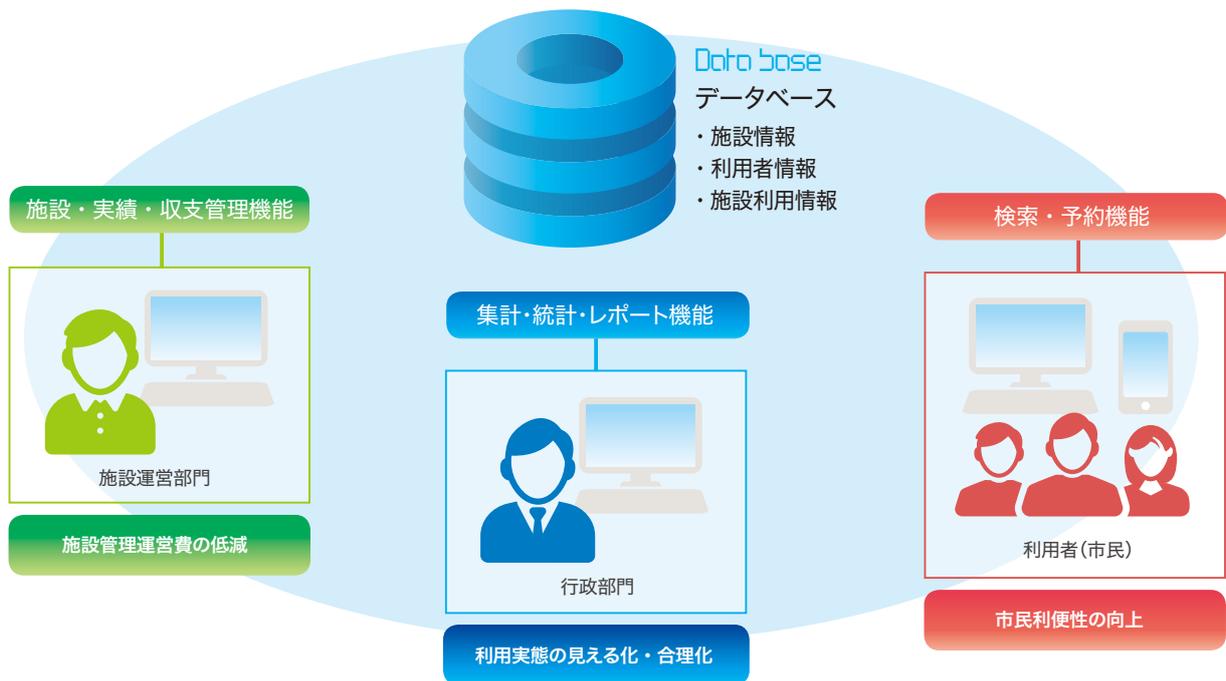
2015年度導入対象施設

- 門司生涯学習センター
- 門司体育館
- 門司勤労青少年ホーム
- 東部勤労婦人センター

公共施設統廃合モデル地区の施設を対象



公共施設マネジメント システム(イメージ)



☑ BUSINESS REPORT

27年度事業報告

- 市及び関連団体を含めた検討会組織を形成
- 市内4施設における現場ヒアリング調査を実施
- 見える化プロトタイプシステムを開発
- 28年度より実証運用を開始予定

ヒューマンメディア財団

推進体制

2016年度
プロトタイプ導入による
実証開始予定

民間事業者

施設管理団体

北九州市





えいのうのいえさん (北九州府)
 【えいのうのいえ】のこだわり野菜紹介 その10
 北九州市で穫れる「おすすめ野菜」を紹介します。
 その10「北九州産の野菜通」
 いままで紹介した以外にも北九州市ではおいしい野菜がたくさん穫れます。特に、これから旬を迎える「会場のためのこ」。このおしきは全国的にも有名です。さらさらとした

その他の野菜

ICTの活用による
 農業支援



農業分野、特に、個人農家や中小の農業法人では、ICTの利活用が進んでいないのが現状です。このプロジェクトでは、ICTを農家に活用してもらうことで農産物の流通の効率化や収益の拡大を通じて、楽しい農業を追求しています。

事業方針

- I 新規就農支援
 企業経営などのノウハウのある方を軸としてロールモデルを作ります。
- II 流通の改善による農業経営の高付加価値化
 小規模農家にも十分チャンスのある、多品種少量生産の希少野菜の流通システムを構築します。
- III 新しい兼業へのモデル構築
 大市場近郊のいわゆる都市農業に適した、事業モデルのブラッシュアップを行います。有識者からなるワーキンググループを構成し、実証する農家にICTや経営モデルを利用してもらい、使いやすさなどをフィードバックしてもらうことで、精度を上げていく方式をとっています。

経営の効率化と小ロットでもチャンスのある流通支援システムを検討し、現在一部を実証試験中。

- 営農日誌&収益見える化ツール(えいのうのいえ-1)
 収穫した作物の生育状況やコストを見える化して、経営安定化を狙う。
- 地産地消型の野菜流通支援ツール
 (えいのうのいえ-2)



EVENT

農業×ICT マッチングセミナー in 北九州

日時 平成28年2月10日
 場所 ヒューマンメディア財団ビル マルチメディアホール

今回のテーマは、「都市農業」。なぜ今政府は、条件が不利なはずの都市の農業を後押しするのか?地産地消・ブランド化・6次化・そしてICT化を通して成長しようとしている、都市農業の現実を紹介しました。





北九州IoTプラットフォーム構築事業

スマートシティ北九州を実現する新たな社会基盤として、各種センサーやビーコン等のセンサーデータの収集や蓄積、ビッグデータの分析機能により構成される「北九州IoTプラットフォーム」の構築を計画しています。

これにより、北九州地域における新たなIoTサービス創出に必要な実証実験が可能となり、地域情報基盤が保有する地域のデータとともに、新事業の創出を目指します。



IoTを活用したビジネスの創出や街のにぎわいづくり、地域経済の活性化を推進



スマートヘルスケア実証事業

アクティブに活躍できる高齢者を増やすことによる、地域経済の活性化を図るため、ICTを活用した予防型のスマートヘルスケアサービスの構築を目的としたモデルを策定し実証を行うとともに、事業化へ向けた検討も並行して進めていきます。

スマートヘルスケアサービスの検討は、九州歯科大との連携による、口腔ヘルスケアのほか、民間事業者によるヘルスケアの取り組みの支援、運動による介護予防のための行動促進プログラム等のテーマについて検討を行いながら事業化を目指します。

プロジェクト概要:スマートヘルスケア介護予防

財団・民間事業者・行政のコラボによるICTを用いた効果的なヘルスケアの検討

**HMC
口腔ヘルスケア**

九州歯科大
口腔ヘルスケア
例) 歯周病菌検査
デバイス

**ヘルスケアビジネス
創出支援**

民間事業者による
ヘルスケアの取組み
例) 薬局での簡易血液検査

**保健福祉
ヘルスケア事業**

・健康マイレージ事業
・地域でGOGO健康づくり事業

意見交換会

- ・財団・行政等が参加する意見交換会を月1回程度開催
- ・意見交換会で出てきた意見をもとに、産・学・官・民・金からなるコンソーシアムを形成し、スマートヘルスケアに効果的なサービスの実証モデルを策定する。

目指すもの

生活習慣
病の削減

健康寿命の
延伸

ヘルスケア
ビジネスの創出

医療費削減による
財政効果





ICT利活用を推進
できる人材の創出へ

実践的に活躍できるICT人材を育成するため、マネジメント・マーケティング・最新技術・経営／財務・人事等のビジネスに直結する実務能力の向上を目的とした講座を実施しました。

また、異業種や異分野の人材が地域で継続して連携・活動するためのコミュニティづくりや風土づくりなどの支援を行っています。

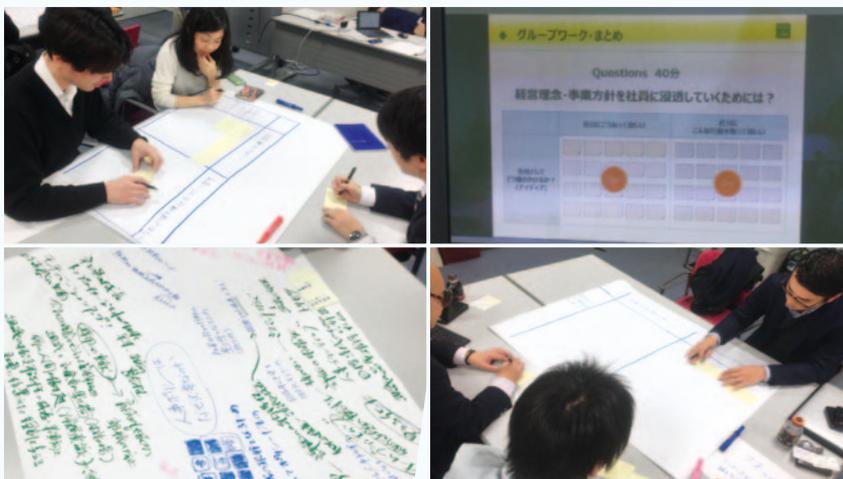


EVENT

実践型ICT人材育成講座

日時 平成27年9月～平成28年2月 場所 AIMビル セミナールーム

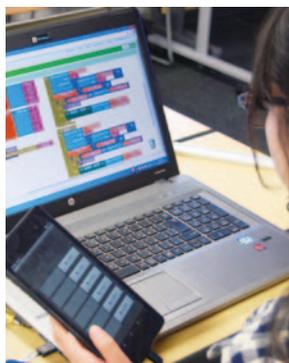
実践型ICT人材に必要な、マネジメント・マーケティング・最新技術・経営・財務・人事等、ビジネスに直結する実務スキルや知識の習得と、将来的に企業内での活躍や起業家としての自立を目的に、全11回のシリーズ講座を実施。すべての講座でグループワーク・ハンズオンを行い、実際に経験・体感することで深い理解とその後の実践に繋ぐことを目指しました。





次世代を担う技術者
育成をめざして

中学生・高校生を対象とした研修では、アプリやゲームのプログラミング、映像とプログラミングを組み合わせたアートなど、身近なジャンルでのICTを使ったモノづくりの楽しさを体験することで「創造する力」「つくる技術」を習得し、次世代のICT社会を担う若手人材の創出と育成を目指しています。



EVENT

高校生のためのスマホアプリ開発体験合宿

日時 平成27年9月20日～22日

場所 西日本工業大学 地域連携センター／小倉リーセントホテル

2泊3日の合宿型スマートフォンアプリ開発研修で、企画・デザイン・プログラミング・リリースまでの工程を体験し、チームビルディングやプレゼンテーションなどのスキルを習得しました。13名の高校生・高専生がメンターから技術的アドバイスを受けつつ、チームごとにオリジナルのアプリを作成し、最終日には審査・講評を受けました。



中高生のためのITキャンプ@北九州市

日時 平成27年10月4日 場所 西日本工業大学 地域連携センター

中学生・高校生のためのプログラミング・ITキャンプ／スクール「Life is Tech!」を運営する、ライフズテック株式会社と共同で、iPhoneアプリ開発・ゲーム作成・メディアアートなどプログラミングの体験イベントを開催し、市内外から20名の中高生が参加しました。





新しい
ものづくりへの
興味を育てる

レーザーカッターや3Dプリンターなどのデジタル工作機器の低価格化や、簡単なプログラミング環境が整ってきたことから、誰もが自分で考え、デザインし、作ることができるデジタルものづくりの世界が広がっています。

ものづくりの街・北九州で、新しいデジタルものづくりの裾野を広げていくため、多くの可能性を秘めている子ども達を対象に、デザインやプログラミングを通じて、楽しみながら論理的思考力や創造力などを育てることを目的とした講座を開催しています。



EVENT

夏休み!子どもデジタル教室

日時 平成27年8月18日 レーザーカッター初級
20日 レーザーカッター中級
21日 スクラッチプログラミング

場所 西日本工業大学 地域連携センター

西日本工業大学、西南女学院大学と連携し、小学4年生から中学3年生までの子ども達を対象に、手描きやコンピューターで描いた独創的なデザインをもとに、手作業では難しい形状で材料を切削して作品を作り出す「レーザーカッター教室」、画面上のブロックを組み合わせるScratchを使ってオリジナルのゲームを作り出す「スクラッチプログラミング教室」を開催しました。





アイデアから
生みだす
新しいサービス

単独の企業だけでは生み出すのが難しい革新的な製品を、デジタル工作機器を活用しながら異業種との共創で生み出す、オープンイノベーションの取り組みに挑戦し、地方創生の新しいモノづくりの流れを生み出すことを目指しています。

EVENT

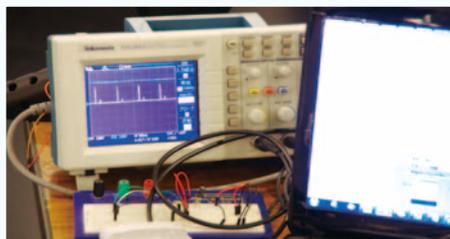
「ハンガソン」(ハンガーがテーマのハッカソン)

日時 平成27年9月6日 / DAY1 10月3日 / DAY2 場所 fabbit

地場企業の製品であるハンガーをテーマにハッカソン(みんなで集まり意見を出し合い実際に試作するイベント)を行いました。DAY1では主にアイデア出しを、DAY2までに地域の機材や人材を活用してプロトタイプを作り上げ、IoTのアイデアも含めて形にした試作品を11月に開催されたMONOCAFE2015内ブースにて発表展示しました。



作成中のハンガー





ものづくり
クリエイターの
祭典



3Dプリンターやレーザーカッターに代表される新しいテクノロジーと、ネットワークの世界的普及が化学反応を起こし、古い大量生産モデルでは作成困難な製品が、個人でも作成可能なパーソナルアプリケーションの時代が到来しました。

ものづくりとコンピュータを結びつけて生まれたデジタルアプリケーションは、今後ますます広がり、普及していきます。このムーブメントを促進するため、クリエイターの生み出す作品を広く発表し、交流する場を地域に提供するために「北九州 MONOCAFE (モノカフェ)」を開催しています。

デジタルとアナログ、プロとアマをつなぐ架け橋となり、多様な創造性が誕生するイノベーションイベントです。



EVENT

北九州 MONOCAFE 2015

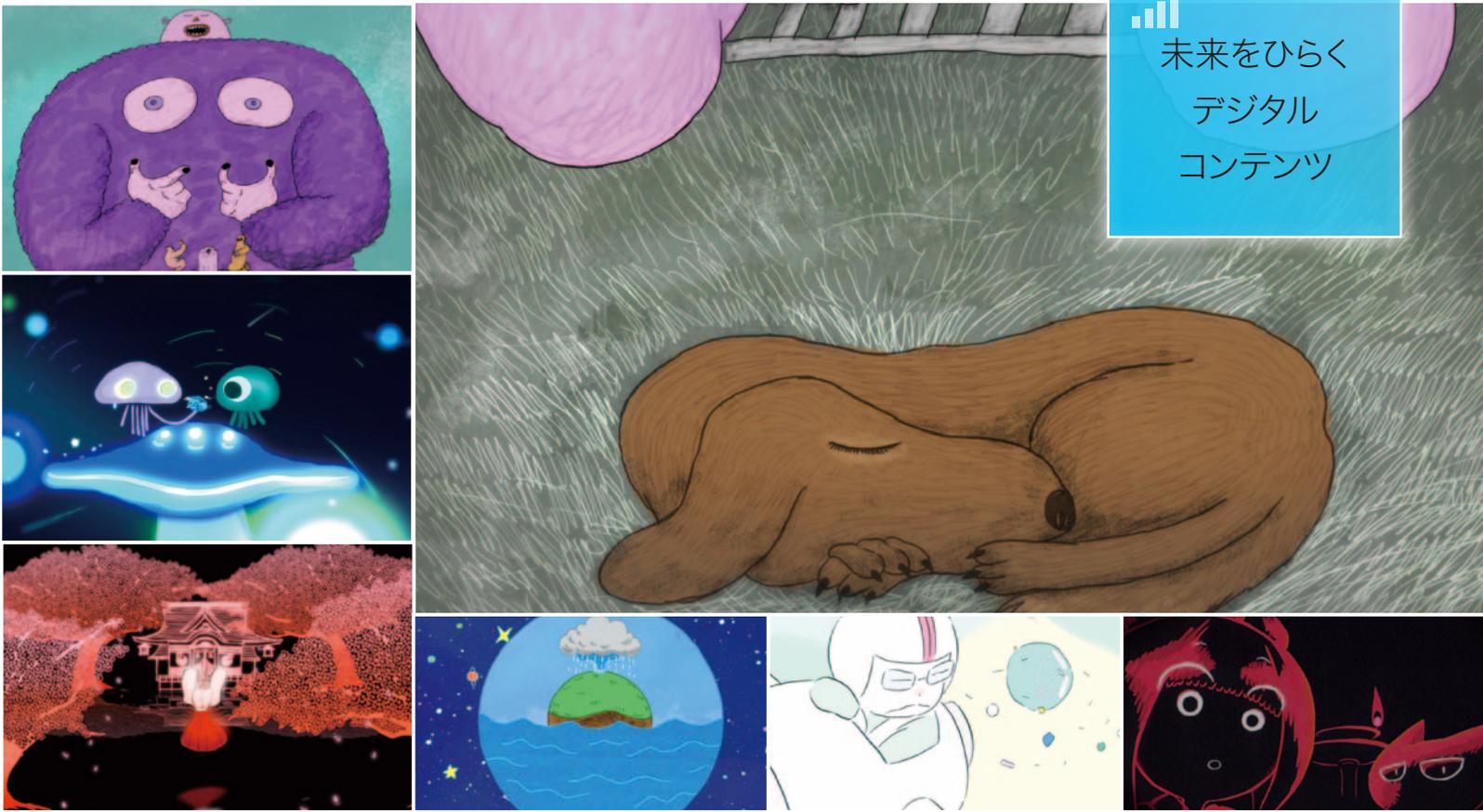
日時 平成 27 年 11 月 7 日・8 日
場所 西日本総合展示場



55団体によるブース出展と、ワークショップ・ステージショーなど、知的好奇心をそそる新しいテクノロジーを使ったものづくりイベントを2日間にわたって開催。ステージでは、「へボコン」こと「技術力の低い人限定ロボコンin九州」、土佐信道氏(明和電機社長)のトークショー「また新しいものを作ってしまった!」、プロジェクションマッピング×ファッションショー、竹楽器演奏などが行われました。また、会場内では屋内ドローンレースやロボットバトル、デジタル楽器、電子工作、ガジェット、ゲームなどの展示、羽ばたき飛行機や電子楽器 littleBits のワークショップも開催されました。



未来をひらく
デジタル
コンテンツ



大賞 / Moving Colors 上甲トモヨシ

EVENT

北九州デジタルクリエイターコンテスト 2016
表彰式・展示会

日時 平成28年3月26日 場所 北九州市漫画ミュージアム

北九州デジタルクリエイターコンテスト2016表彰式が行われ、全国各地から入賞者が参加しました。作品展示会は、漫画ミュージアム内「あしたのギャラリー」で5月下旬まで開催されました。



「北九州デジタルクリエイターコンテスト」は、映像、CG、アニメ、静止画、WEB、インスタレーション、ガジェット、マンガ作品など、幅広いジャンルを受け入れており、多彩な作品が一堂に集まり、お互いを刺激しながら新たなムーブメントを生み出すことを目的としています。

第10回となった「北九州デジタルクリエイターコンテスト2016」では“想像的いきものたち～Imaginary Creatures”をテーマとして、全国から207作品の応募があり、各ジャンルと審査員賞をあわせて15作品が入賞、表彰されました。



ライオンズクラブ賞 /

- 柿木 啓寿
- 齋藤 倫
- 原 希望
- 太田 唯月
- 田村 翠



役員 [10名] 平成28年4月1日現在 (役職順・50音順)

▼理事長

高橋 孝司 公益財団法人九州ヒューマンメディア創造センター 理事長

▼理事

大川 博己 北九州市産業経済局 企業誘致(特命)担当理事

近藤 倫明 公立大学法人北九州市立大学 学長

庄司 裕一 北九州情報サービス産業振興協会 会長

二郎丸 聡夫 北九州商工会議所 事務局長

塚本 寛 北九州工業高等専門学校 校長

廣瀬 香 一般社団法人九州経済連合会 社会基盤部長

松永 守央 国立大学法人九州工業大学 顧問

▼監事

間 芳則 日本テレコムインフォメーションサービス株式会社 代表取締役

松原 英治 北九州市 会計室長

評議員 [8名] 平成28年4月1日現在 (役職順・50音順)

網岡 健司 新日鉄興和不動産株式会社 九州支店 副支店長

生山 武史 株式会社安川電機 人事総務部長

尾家 祐二 九州インターネットプロジェクト 会長

小倉 良夫 九州電力株式会社 執行役員北九州支社長

草刈 昌志 西日本電信電話株式会社 北九州支店長

下川 徹 株式会社高田工業所 顧問

東 敏昭 学校法人産業医科大学 学長

前原 典幸 TOTO株式会社 総務本部長

賛助会員 [26団体名] 平成28年4月1日現在 (50音順)

株式会社エリアサービス

株式会社北九州銀行

北九州商工会議所

新日鉄住金ソリューションズ株式会社

株式会社スピナ

セイコーエプソン株式会社

株式会社ゼンリンデータコム ソリューション事業部

ソニービジネスソリューション株式会社

ソフトバンク株式会社

株式会社ソルネット

データキューブ株式会社

TOTO株式会社

西日本コンピュータ株式会社

株式会社西日本シティ銀行 北九州総本部

株式会社日鉄コミュニティ 九州支店

日本電気株式会社 北九州支店

早原特許技術事務所

株式会社ビーフロント

ビズ・コレジオ株式会社

株式会社日立製作所 九州支社

富士通株式会社 九州支社

安川オピアス株式会社

安川情報システム株式会社

株式会社リンク

株式会社ロココ

株式会社ワンビシアークイブズ 九州支店

ACCESS JR八幡駅から徒歩5分

公益財団法人九州ヒューマンメディア創造センター (略称: ヒューマンメディア財団)
〒805-0071 北九州市八幡東区東田1丁目5番7号 TEL 093-663-2950 FAX 093-663-2955

